

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

私は将来、音楽科の教員になるという夢があり、その実現のために、同志社女子大学を志望しました。同志社女子大学では、様々なジャンルの授業を受講できるほか、授業の雰囲気作りや生徒のモチベーション向上に生かせる音楽療法士の資格を取得できるので、幅広い教養と専門性、実践的な技術が教員には必要であるとする私にとって、大変魅力的な環境です。また、オープンキャンパスでは、先生方はとても親切で熱心に指導してくださり、先輩方からは、充実した大学生活を過ごされていることが感じられ、同志社女子大学に足を運ぶ度に「系色文対にこの大学で4年間学ぶんだ」という気持ちがどんどん強くなりました。

- (2) AO方式入学者選抜を受けようと思った理由。

高校入学後、勉強や部活動などで、なかなか時間が取れず、コンクールに出場できていなかった私は、AO方式の入試は自分には無縁だと思っていました。しかし、オープンキャンパスに参加し、AO入試で合格された先輩から、「音楽文化専攻のAO入試は、音楽が大好きだ」という自分をアピールできることが「大事!」という話を聞き、音楽と生涯関わっていきたいと考えている私は、AO入試にチャレンジすることに決めました。選考では入学したいという気持ちを直接伝えることができるので、学力のみで選考される一般入試とは異なり、自分の入学に対する熱意を評価してもらえる良い機会だと思います。

- (3) AO方式入学者選抜においてアピールした活動、経歴、資格等。

私は高校3年間在籍していた剣道部で、忍耐力を鍛えられ、「最後まで諦めずに頑張る姿勢を身につけられたと自負しています。その忍耐力と最後までやり切る姿勢を生かし、音楽関係の様々な資格を取得することができたことや、地元で音楽関係のボランティアや音楽団などに積極的に参加することにより、音楽に文才する様々な活動を通して、自身が大きく成長できたということも、積極的にアピールしました。

- (4) 出願書類作成や面接で心がけた点。

〔出願書類作成〕

自分が何を一番伝えたいのかということや、なぜ同志社女子大学でなければならぬのかということも、明確にするために自分の考えを箇条書きにしました。そこからどんどん内容を具体化し、文章化していきました。一次審査は、すべてが提出した書類で決まってしまうので、誤字、脱字に注意し、読みやすい文章を書くことを心がけました。また、担任の先生や友人、両親に何度も読んでもらい、指摘された点については、その都度書き直し、自分の思いが伝わる内容になっているかどうか、読み直すようにしました。

〔面接〕

出願書類や同志社女子大学のホームページ、パンフレットに書かれていることを何度もくり返し読み込みました。また、実際に面接官の先生に質問されそうな内容をイメージ、どのようなことを質問されても答えられるように、毎日毎日担任の先生に見ていただいていたので、練習すればするほど、不安はなくなり、自信がうくようになりました。また、本番では面接官の先生の目を見て、ゆっくりかつハッキリと話すことを心がけました。

- (5) 選抜を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

私は、特に目立った経歴などがなかったため、「こんな平凡な私が受かるのだろうか」と、合否が決まるまではとても不安でした。しかし、先輩の言う通り、音楽が大好きな自分や、同志社女子大学に系色対入学したいという「したい」という強い気持ちを伝えることができ、合格することができました。下手でも、多少間違えても一生懸命話したら大丈夫です。自分に自信がなくても、諦めずに頑張れば、本番は堂々と振る舞えます。何より自分らしさを大切に！頑張ってください!!